

戦争継続の原動力となった



国策紙芝居をあなたは知っていますかII

国策紙芝居とは第二次世界大戦中の日本において、戦争に対する国民の関心を高めるために製作、上演された紙芝居群のことです。また、戦時中においては日本国内のみならず、台湾や朝鮮半島でも戦争の正当性を訴えるプロパガンダの道具として広く活用されました。

国策紙芝居の目的は、戦争継続に必要な国威発揚を促すことであり、国民の戦意を向上される意図がありました。最盛期には年間70万部発行されたとされ、戦争継続の原動力の一つとされています。

国策紙芝居の種類は多岐にわたり、銃後物語、体力向上、勤儉貯蓄、生活改善、防空知識、傷痍軍人慰問、スパイ防止といったものから、国史、武士道、国旗、日本の自然をテーマにした「国体紙芝居」、衛生防疫、公民知識、乳幼児愛護、母性保護などをテーマにした「教化紙芝居」、戦局、国際情勢を扱った「ニュース紙芝居」、宣撫班(旧日本軍が占領地域の住民の協力を得るために、戦争目的を宣伝したり、娯楽など提供するために組織、派遣された小部隊)の活動を紹介した「大陸工作紙芝居」などがありました。

(※参考 紙芝居の歴史 上地ちづ子著 久山社)

国策紙芝居は終戦と共に制作されなくなり、そのほとんどが焼却処分されました。

この度、(一財)子どもの文化研究所(東京都豊島区)の協力を得て、貴重な歴史的な文化財である国策紙芝居の一部を展示・実演する企画を行うことになりました。戦後78年、いま一度、平和の大切さについて一緒に考えてみませんか。

ながの子どもの文化研究所 代表 塚原成幸(清泉女学院短期大学 教授)

<開催概要>

○国策紙芝居の展示:2023年8月1日(火)~8月10日(木)

10:00~17:00

場所:清泉女学院大学・短期大学図書館1階

入場無料

主催:ながの子どもの文化研究所

(事務局/清泉女学院短期大学・塚原研究室内)

協力:(一財)子どもの文化研究所

学校法人 清泉女学院、長野県紙芝居演者ネットワークの会(N-KEN)

問い合わせ先:清泉女学院大学・短期大学図書館(平日:10:00~17:00)

電話:026-295-1320(平日:9:00~17:00)

mail:tsuka@seisen-jc.ac.jp



長野県長野市上野2-120-8